

「共生社会」って何？

教 頭 開 聡子

今ではどこへ行っても見聞きする SDGs。SDGsは、ご存知のとおり「持続可能な開発目標」の略称で、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、貧困や不平等、気候変動等の課題に取り組むための行動計画です。「誰一人取り残さない社会」つまり、「共生社会」っていったい何なのでしょうか。大人が使う言葉で、なんだか難しいなあというのが正直なところですね。少し前の新聞に、大阪府内のある中学生が学校で「共生社会」について考えた際の文章が掲載されていました。

私たちは、学校で共生社会の大切さを学びましたが、現実はそううまくはいきません。

私は班長をしています。私の班には、仲が悪く、ふだんから言い争いをしている二人がいます。この前も班で話し合いをする時に、「私はあいつと話したくない」と言って参加してくれないことがありました。説得しても、そのまま授業は終わりました。

学校でどれだけ「共生社会を実現しよう」と学んでも、なかなか現実の生活には反映されません。でも意外と、ほかの班員はそんな二人も受け入れて、班長の私よりもうまく二人に関わっています。

そう考えると、「全員が仲良く」とか「全員が助け合って」というのが、共生社会の実現というわけでもないようです。共生社会とは何か、ますますわからなくなりました。

この班長さんは、班長という責任もあり、班をまとめようと日頃から努力しているのでしょうね。でも、班員みんなが仲良くするというのは難しい。現実はいかにうまくいかないぞ、と悩んでいます。ところが、班全体に目を向けると、確かにいがみ合う二人が仲良くしてくれれば助かるのですが、一方でけんかばかりする二人を受け入れている班員がいる。大げさかもしれませんが、対立する二人を受け入れ、居場所を作ることで、班という小さい社会が崩壊せずに保てているように見えます。

様々な価値観(考え)がある中で、みんなが同じ方向へ、同じ熱量で向かえることはなかなか難しいです。何が正解かわからないことや、正解が一つではないこともたくさんありますが、そういう時「相手の尊厳(命)を大切にできているか」ということを軸に自分の行動や発言を判断していく、というのが大前提なのではないでしょうか。